

圖① 孔苗碑·伊秉綏跋



《伊秉綏跋文积文》

此漢之孔苗碑舊藏於京陵王氏後歸山陰董氏余出守惠州時過訪以此碑見示相譚終日結為金石契細詒其文見其墨色淋漓尚有古香之氣爰題數語以為好事者所珍重耳嘉慶甲子秋九月中澣日
汀州伊秉綏觀并記「伊氏秉綏」(印)「默庵」(印)

「落ち穂拾い記」⑤

『孔宙碑・旧拓本』伊秉綬金泥跋

図版② 「宋拓多宝塔碑」伊秉綬題記



図版④ 二十年前旧板橋



図版③ 東閣梅華



図版⑤ 錢泳之印



図版⑥ 山陰童氏家藏



図版⑦ 広陵太守



伊秉綬(1754~1815)字は組似、墨卿と号した。晩くには默庵ともは、清朝後期の書法家である。高島槐安居旧藏「宋拓多宝塔碑」の巻頭に書かれた「宋拓僅存」の題記(図②)は、重厚な隸書で大変魅力的であり、忘れがたい作である。しかし家蔵本の鑑藏印や跋は、その当時、見れば見るほど気になり、いつ頃か、目障りな印数顆を削り落とした。黒い拓紙の上に捺された印影は、削りにくく耐水ペーパーでなんとか見えないように朱を落とした。伊秉綬の金泥跋も同じよう試みたが、朱と異なり上手くできず、削り落とすのを諦めた。十年ほどして、昭和62年(1987年)頃、神保町で文房四宝を扱っていたS氏が、珍しい中国の方を連れて来宅された。上海の朵雲軒からアメリカのクリスティ・オークションの中国書画部門に転職された馬成名氏と氏の後輩の張榮德氏であった。馬成名氏は、「増補校碑隨筆」で有名な王壯弘氏の後輩であり、碑法帖・書画の専門家であり、研究者としても著名な方である。家蔵の金石拓本をあれこれお見せしながら、意見交換した。そのときに、この「孔宙碑」の旧拓本は、拓調は大変いいのですが、鑑藏印やこの伊秉綬の金泥の跋がどうも気になり私見を述べてから、お見せした。馬、張の両氏とも、この伊秉綬の金泥の跋も鑑藏印や

錢梅溪の「錢泳之印」「立群」(図⑤)印も問題ないのではと。この「孔宙碑」は、清朝の名家・伊秉綬や鄭板橋等の通藏を経た善本である。この言は予想もしなかった。しばらくして、巻頭の「山陰童氏家藏」(図⑥)印の左側の削り落とした印影が、伊秉綬の自用印の「廣陵太守」(図⑦)の白文印であったことに気がついた。僅かであるが、黒い拓紙の上に薄っすらと窺い見ることができる。取り返しのつかないことであった。それ以後、跋文や鑑藏印も丁寧に見るよう心掛けた。この金泥の跋文(図①)は、嘉慶九年(1804)、伊秉綬五十年の書であり、その内容は、「この漢の孔宙碑は、古くは京陵王氏から山陰の童氏に帰したまま友人の錢泳(1754~1815)字は立群、梅溪と号す)が訪れ、この帖を示し終日金石の交わりを楽しんだ。碑文の拓調の瑞々しく、古香の氣があるので、簡単にその珍重されることを記した」と。清朝の前期の書法家・鄭板橋を始めとして錢梅溪、伊秉綬の手を経てきた流伝もあれこれ想像される。最近、この帖を以前に買い求めたH書店の昭和四十六年の古書目録を入手した。最後方に中国拓本追加として三十余件の碑銘が列記され、三十番にこの孔宙碑が示され、二万五千円と記してあった。

伊藤滋(書齋名・木鶏室)

伊秉綬の「東閣梅華」(図③)、鄭板橋の「二十年前旧板橋」(図④)の朱文印や

書道芸術院 令和の群像 (2020)



第35回毎日現代書関西代表作家展 「睡蓮の句」

山 崎 掃 雪 書



山 崎 掃 雪

恩師の言葉を胸に ↗ 着実で冷静に進むこと ↗

令和元年は、関西書道協会にとっても、私にとっても激動の年になりました。恩師とも母とも思っていた砂本杏花会長が、闘病のかいもなく、7月18日に天国に召されたのです。そして

その後、公益財団法人書道芸術院理事長辻元大雲先生より、後任会長に任命していただきました。これから関西書道協会をどのように進め行けばよいのかと、心の焦りを感じつつ、一方では、「砂本杏花先生を偲ぶ会」(令和元年11月4日開催)の準備に心落ち着かない日々を過ごしておりました。

その最中に、第35回毎日現代書関西代表作家展出品の作品、林徹氏の句「睡蓮の黄色ばかりや雪舟庭」を書作していました。私は「蓮」や「睡蓮」がとても好きで、それらの文字をよく作品に書いています。今回の作品も「睡蓮」が目にとまり、これを、淡墨か濃墨かどちらにしようかと迷いましたが、濃墨と決め、その持つ力強さと渴筆や破筆のデリケートな線を表現したいと、筆を運びました。どうしようもない焦燥感と、先生にご指導いただけないもどかしさとむなしさを感じつつ、無我夢中で書いていました。先生からは常日頃、「渴筆は柔らかいのが本領ですが、弱すぎるくらいがあつてはいけません」と言わっていました。このことは一朝

一夕に出せるものでもなく、書作する度に自分に言い聞かせています。

令和2年1月9日～14日まで、近鉄アート館で開催された「第35回毎日現代書関西代表作家展」で展示されている作品を見た時は身体に震えが起きました。先生の「薔薇」と私の「睡蓮…」の作品が並んでいたのです。先生が見守ってく

れているようで、言いようのない感情を覚えたのを思い出します。これは、展示担当の方が、先生の横にと、格別のご配慮をいただいたのだと感謝しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

今後は、関西書道協会会長として、会の運営に当たる所存です。その際には何より会員とのつながりを大切にしたいと思っています。その一例として「関西書道協会だより」を新たに発行しました。その中では、会員の展覧会活動や各展覧会の出品作品、受賞者の一覧などを記載しています。これからも、令和元年1月号の「書心」編集後記で恩師が記された「着実で冷静に進むこと」を座右の銘として、書道芸術院理事長辻元大雲先生、白扇書道会理事長種谷萬城先生はじめ諸先生方の温かいお気持ちに感謝しつつ、精進していくなければと強く思っています。

書のひろば

理事長 辻 元 大雲

新型コロナウイルスの蔓延の影響 が拡散毎日書道展も順延に

皆様ご承知の通り、新型コロナウイルスの蔓延が止まらない。東京をはじめとする主要都道府県では益々感染者が増加し、誠に残念ながら「くなられる方も日に日に増加している。最初7府県に発せられた非常事態宣言も全都道府県に拡大され、日毎のニュースに心痛められる。

まずはご自身、ご家族での感染防止対策に心し、焦らず落ち着いて対応して頂きたい。

院事務局では勤務体制を縮小し、勤務時間の調整なども行いながら感染防止、安全対策を講じている。但し毎月の「書道芸術」「書道芸術学生版」の作品整理、審査、編集業務などは休むことが出来ず、緊張感をもつて対応していることをご理解いただきたい。特に春の昇級試験審査が重なり、作業が倍加している状態で、作品整理・審査・編集などに当たっていた方々には、リスクを承知で担当していただきたい。誠に申し訳なく感謝したい。

会員諸氏にとっても普段の稽古など

の活動が出来ずお困りの方々がほとんどではなかろうかと拝察する。普段使っていた会場が使えない状態が続いている中、生徒さんへの対応を色々ご苦労されていると伺っている。通信指導や手本の配布など様々であるが、何とか工夫して生徒のために出来るることを模索し頑張っていただきたい。

院関係事業の見直し・変更

・5月9日予定定期理事会

書面による審議に切り替える。
・監査 5月7日に変更。

書面理事会へ報告

・6月6日評議員会 予定通り

・6月20日理事会、74回展運営委員会、実行委員会 予定通り

(但し情勢により日程変更、書面審議に切り替える場合あり。)

・8月22～23日 単位認定岡山講習会

は現在の状況、ホテル側との協議により開催は不可能と判断し、来年に順延する。来年同時期に同じ会場で開催する予定。既にご案内を発送済みだがご了承いただきたい。

・秋季展は予定通り開催する。 ・秋冬季は予定通り開催する。

・「書道芸術学生版」春季昇級試験

7月7日締切を1ヶ月延期して6月7日締切とする。審査なども繰り下げ実施する。既に出品された分も含めまとめて審査する。ご了解を。追

加の受験も可能。事務局へご連絡を。の活動が出来ずお困りの方々がほとんどではなかろうかと拝察する。普段使っていた会場が使えない状態が続いている中、生徒さんへの対応を色々ご苦労されていると伺っている。通信指導や手本の配布など様々であるが、何とか工夫して生徒のために出来るることを模索し頑張っていただきたい。

第72回毎日書道展順延へ

この度の新型コロナウイルス蔓延の影響から第72回毎日書道展が来年開催に順延された。毎日書道会からの順延に関する挨拶文全文。

一般財団法人毎日書道会 理事長 朝比奈豊

第72回毎日書道展を1年順延いたしました

ます

拝啓 平素から毎日書道展にご協力いただき、厚くお礼申しあげます。

さて、新型コロナウイルス問題の深刻化を受け、毎日書道会は4月10日に臨時理事会を開き、「今年の毎日書道展を取りやめ、第72回展の開催を令和3年に順延する」と決定いたしました。

5月11日(月)から毎日ホールで行う予定だった作品搬入は中止します。誠に残念ではありますが、状況が日々悪化する中、書家の皆様や関係者の生命と健康を守るためにの判断であり、何卒ご理解を賜りたく存じます。すでに一般公募とU23の出品料を払い込んだ方は、多少日数がかかりますが、順次返金いたします。

本来なら出品者全員に書面で通知すべきところであります、印刷と封入

作業にかなりの時間がかかるため、取り急ぎ社内代表の先生方にご連絡を差し上げる次第です。「順延」のお知らせは毎日新聞の社告および毎日書道会のホームページにも掲載いたしますが、ご社内への周知をお願い申し上げます。

最後になりましたが、先生方におかれましてはくれぐれもご自愛ください。ますよう、また、今後のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

全日本書道連盟関係

・5月7日 定例理事会は書面理事会として審議する。

・6月4日 総会は規模を縮小して開催する。会員へは総会通知するが非常事態宣言によりご出席をなるべく回避していただく。このため委任状提出にて議案(令和元年度事業報告・決算の承認・令和3年度の事業計画など報告ほか)をご承認いただく。

・総会時、開催予定の講演会・懇親会は中止する。

・夏期書道大学 8月7日～9日 袋サンシャインシティ会場 現下の状況により本年は開催を中止する。

第55回記念高野山競書大会順延

第55回記念展であるが状況により開催を来年に順延する。

3

特集：第73回書道芸術院展

彰式、祝賀懇親会、撤回、搬出など、長期に亘りご苦労願った。

○審査部
学生展は名越蒼竹審査部長、一般は千葉蒼玄審査部長のもと、事務局、総務部との連携もよく、審査、事務処理ともに順調に進めていただいた。佐藤菜扇副部長はじめ委員の方々に感謝。

○会計部
会計部は学生展と第73回展の全てに亘り、膨大な予算を緻密な計算によって滞りなく処理していただき、事業終了後の残務も含め、近藤尚子担当に心から感謝。

○運営事務局
院展、学生展、運営の全てに関わり、膨大な事務局作業をコンピューターを駆使。事務処理担当の㈱リンクスとの連携を密にして進めていただいた。

各部の当番審査員並びに事務委員の人数割出しに始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品者目録の作成、作品配置、祝賀会座席配置等々、総務、審査、陳列、祝賀会、会計とあらゆる部署と連携し事務処理に関わっていただいた。

又、国際交流ウィーン書道展及びスロバキアでの交流の報告を急遽展示したことも、事務局のご協力に深謝。

山口仙草事務局長、片岡豪峰事務局次長のご苦労に対し、深く感謝申します。



第73回展授賞式



作品解説会



学生展席上揮毫風景



作品解説会（全体）



学生展ワークショップ



学生展授賞式

雁塔聖教序

(唐653年)
褚遂良

〈解説〉雁塔聖教序の特徴は、藏峰（逆筆きみに起筆して穂先を穂の中に包み込むように送筆する筆遣い）を多用し、細線の中にも粘りと強韌さを内在した点画を基調とした書法にある。筆先を十分に利かせ、弾力を豊かな抑揚のある運筆が緩急・太細・強弱の変化を生んでいる。そのリズミカルな線質はこれがまたかも行草書であるかのような抒情的な雰囲気さえ感じさせて、

初唐の楷書において独特的の境地を示している。この雁塔聖教序は、「三藏聖教序碑」と「大唐三藏聖教序記」の二碑からなり、今なお西安市慈恩寺の大雁塔の入り口の左右に現存する。右に位置する聖教序は、右上端から始まる一般的な縦書きであるのに対し、左の序記は左上端から右下端に書き進められ、二碑は左右対称を見せている。

(編集部)



(掲載図版80%に縮小)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみ也可）

漢字研究部臨書課題

(半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

(A. 大作の部—毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可)
(B. 小作の部—半切以上半切以内 (A・B縦横自由)) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

臘漢庭而較夢。照東／域而流慈。昔者分形／分蹟之時。言未馳而／成化。當常現常之世。

高野切第一種
(伝紀貫之)

②

特別研究部臨書課題

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半機紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全幅も可)

〈よみ〉寛平のおほんときのきさいのみやの
うたあはせのうた

よみびとしらす

むめのかをそでにうつしてとゞめてば
はるはすぐともかたみならまし

そせい

ちるとみてあるべきものをむめのはな
うたてにほひのそでにとまれる

※掲載図版は70%縮小。

〈解説〉高野切はいづれも、白麻紙に雲母砂子が一面に散りばめられた清楚で、奥ゆかしい料紙に書かれている。

高野切第一種はこの美麗な料紙の上にゆったりとした筆運びで書写され、気品に富む優麗典雅な情緒を醸し出している。

線は緩急抑揚の変化に富み、温雅にして筆力があり、字形は端正で優美。そして連綿の巧妙さ、墨継ぎの自然の美しさが際立っている。平安時代の古筆の中でもっとも格調の高い美しさを示す優品として尊重されている。

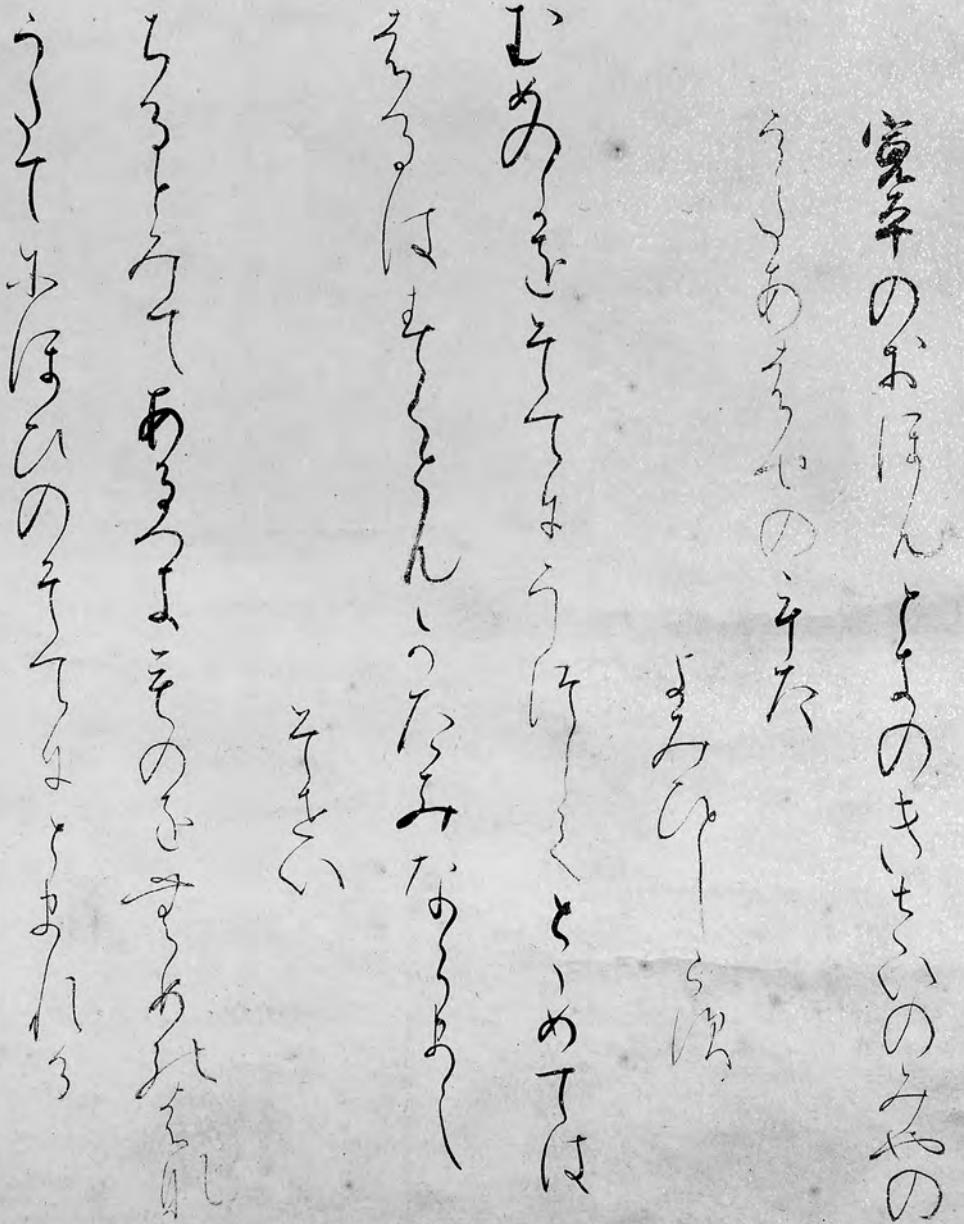
高野切第一種と同筆の古筆遺品に、伝藤原行成筆「大字和漢朗詠集」、伝宗尊親王筆「深窓秘抄」などがある。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で
臨書しましよう。

※落款を必ず入れる。著名もしくは〇〇臨(押印のみも可)

(出光美術館蔵)



※落款を必ず入れる。著名もしくは〇〇臨(押印のみも可)

習い方解説 (二)

半田 藤 扇

窮微測妙 (孫過庭「書譜」)
(微を窮め妙を測る)

精緻な理法を窮め靈妙な真理を
もとめる。深遠な妙趣を追求す
る。

唐代の三大家の一人である褚遂
良。独自の書風を確立した「雁塔
聖教序・枯樹賦」の名品をベース
に創作。

上記の作は、「枯樹賦」の叙情
的な表現で筆意が高雅で心のおも
むくままの書きぶりに挑戦してみ
ました。羊毛筆・長峰を使用。

※左記の△参考作品▽ 上記と

同じ羊毛筆で、楷書「雁塔聖
教序」の倣書。少し硬めの筆
での挑戦もよいと思います。

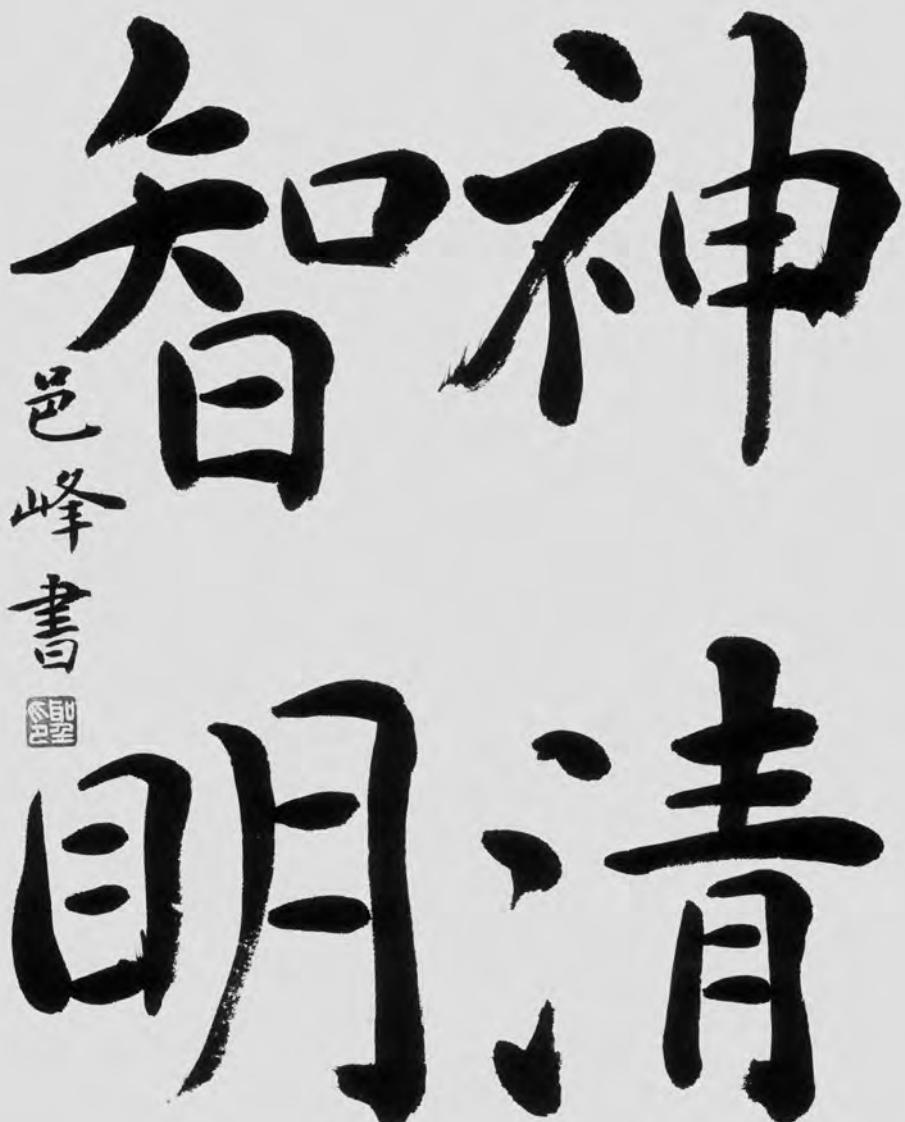


窮微測妙 よみ(微を窮め妙を測る)

書体=自由

太平邑峰

神清智明
(神清く智明か)



2回目は、王羲之の細楷を参考にしてみました。王羲之も鐘繇の書体を学んでいたといわれていますが、実際に「黄庭經」や「樂毅論」を臨書してみるとその血が流れている事が実感できると思いります。同じ羲之の書でも伝わる法帖によって若干印象が異なりますが、格調の高さ、行意のある柔らかく琴線に響くような味わいのあれる線は共通する特徴ではないかと思います。

今回の参考手本は、最終的には前回と同じ中峰の羊毫を使いましたが、やや固めの筆や長峰の筆など色々試してみました。あまり使っていなかつた筆なども引っ張り出したりして楽しい時間となりました。

習い方解説 (二)

下谷洋子

「銀も金も玉も何せむに
優れる宝子にしかめやも」
(山上憶良「万葉集」)

「子らを思ふ歌」と題されたもので長歌の反歌。どんなにすぐれた宝でも子供には及ばないの意。

今回、宝という漢字を旧字体の草書で書きました。この寶という

草書は正統な崩し方ではあります
が、粘葉本和漢朗詠集や蓬萊切などにはそのままの形で変体がな
どして扱われています。

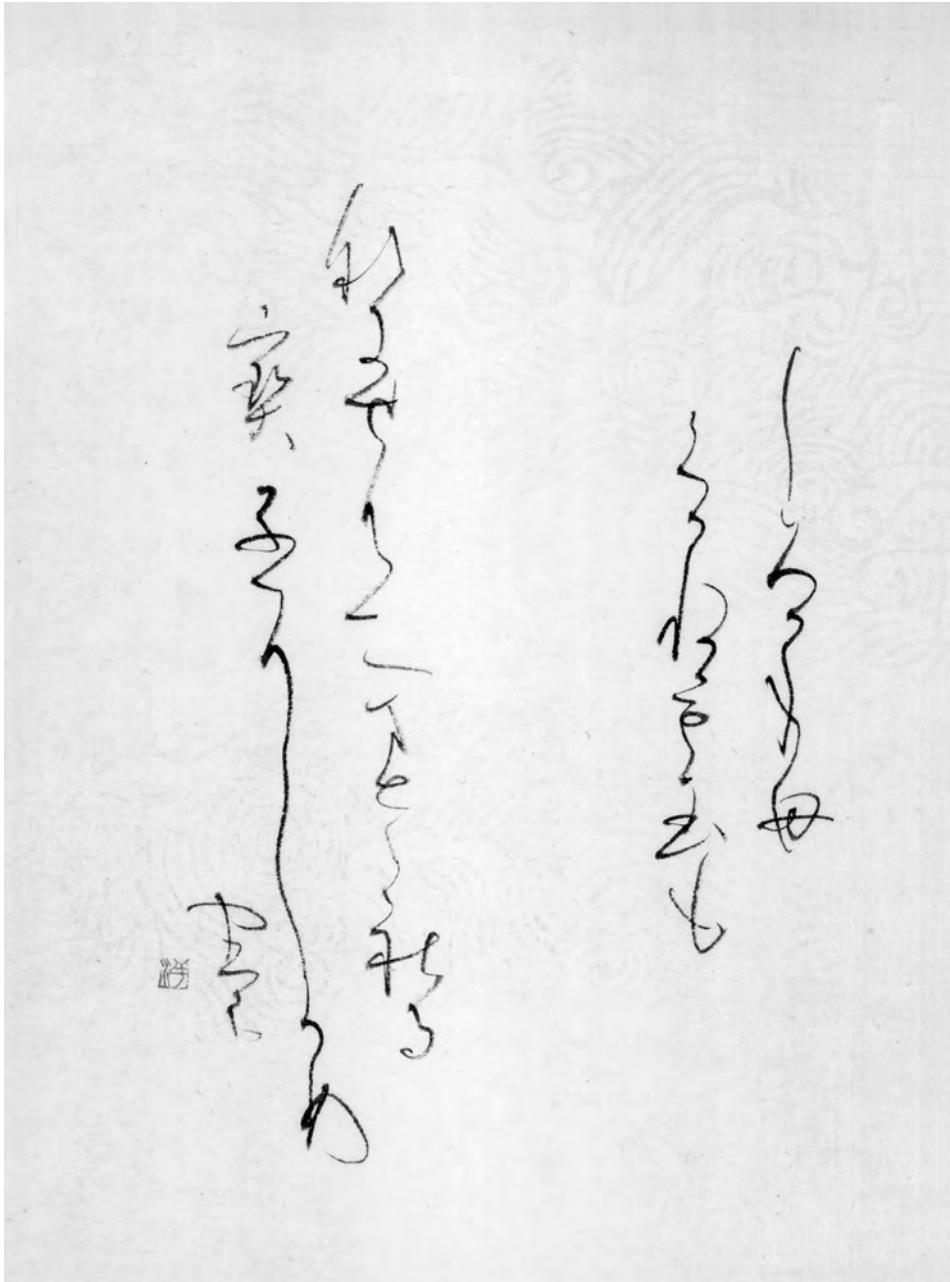
ここで①現在のかな表現におい
て、新字の漢字は旧字体で書くこと
が多い。

②漢字として読ませる時は、前
後の関係でやゝ大き目に書く・点
画を省略しそぎない。

他にも代表的なものとして、春
をすの変体がなとして扱うことな
どは多くの方が経験していると思
いますが、ちょっとした工夫で、
読みにくさを免れます。

創作

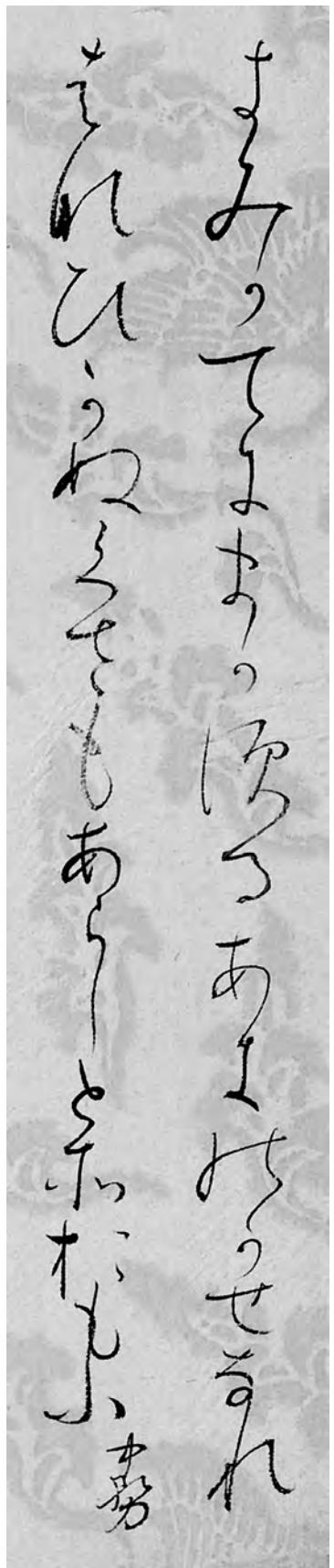
よみ方 銀(しろ可年)も(母)金(久可ね)も(毛)玉も何(那尔)せむ(无)に(イイ)
ま(万)され(禮)る宝(寶)子に(耳)しか(可)めやも(裏)



かな規定 秀級以下【六月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上)の連綿または単体を含む)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 き(支)みが(可)てに(尔)まか(可)す(須)るあき(支)の(能)か(可)ぜな(奈)れ
ば(者)な(那)びか(可)ぬくさもあらじとぞ(所)お(於)もふ中務

習い方解説 (二)

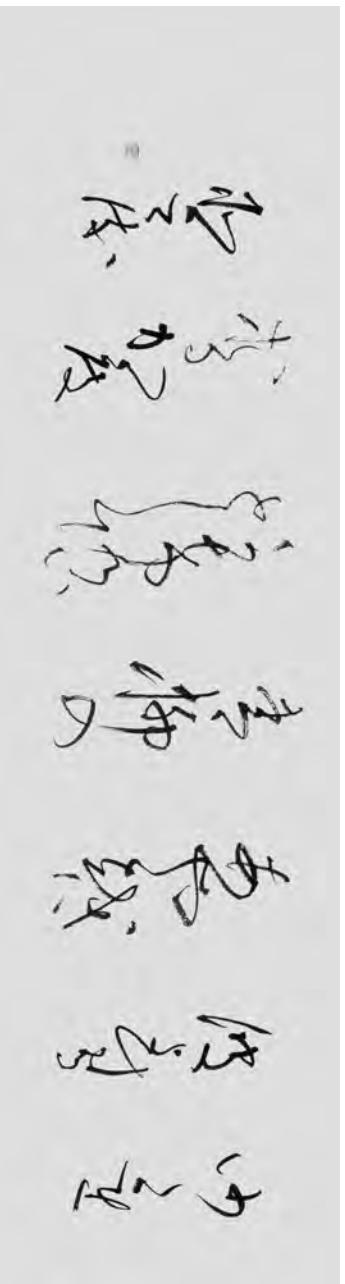
善養寺紅風選書

さざれ波よする文をば青柳の
影の縁して織るかとぞ見る
(紀貫之)

(ノ)

かな条幅規定【六月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

善養寺紅風選書



創作

出品券



*ヨコ形式に限る

横作品は、流れを出すのに苦労します。文字の大小、広狭等、さらに連綿の表情を工夫してしなやかな流れを出します。今回は、複雑な字をえらばず基本的な組み合わせで自然に仕上げました。墨継ぎは「か度」でしましたが「として」あたりでも良いでしょう。

よみ方 さ(沙)さ(レ)れ(連)波よす(寸)る文(あや)を(越)ば(八)青柳の
影(可希)の(乃)絲(じと)して織(お)るかと(度)ぞ(所)見(三)る(流)

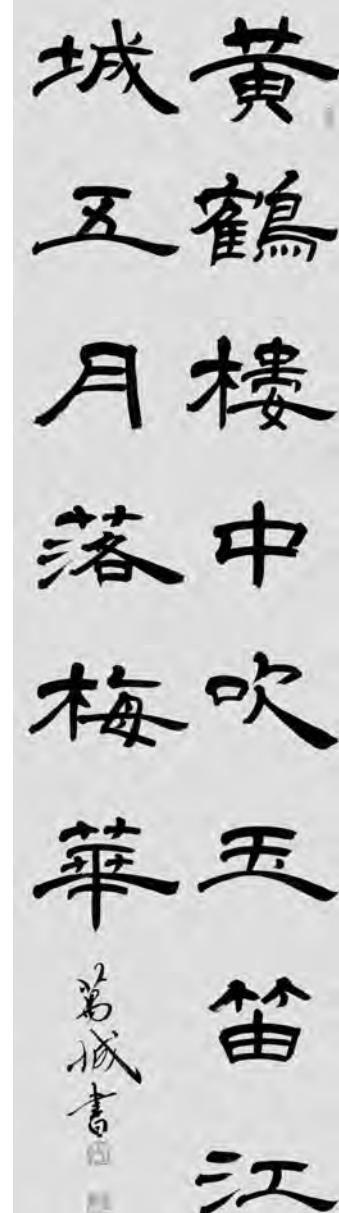
漢字条幅規定 初段以上 [六月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

種谷 萬城選書

種谷 萬城選書

習い方解説 (二)

種谷 萬城



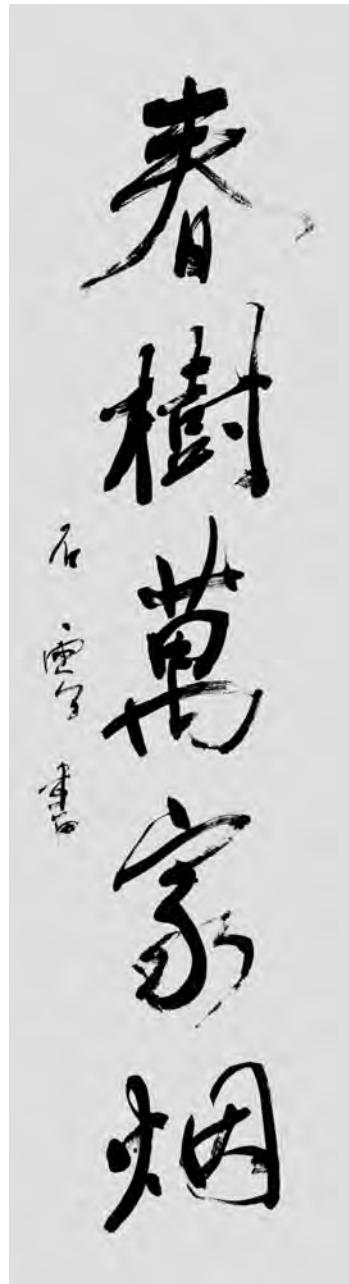
黄鶴樓中吹玉笛 江城五月落梅花
(黄鶴樓中玉笛を吹く、江城五月落梅花。) (李白「與史郎中欽廳黃鶴樓上吹笛」)

漢字条幅規定 秀級以下 [六月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

小竹石雲選書

習い方解説 (二)

小竹石雲



春樹萬家烟
(春樹万家の煙)
(陳鵬年)

前回は真摯に重厚さをねらったものでしたが、今回は動きに重点をおいて書いてみました。筆先が紙面にあたった瞬間の力が緩むことなく、筆鋒の揺りで書けると澄な線になります。運腕を大きく伸びやかに最後まで書ききることが大切です。そして同速同圧にならない、リズム感のある動きを学びましょう。

李白詩を隸書で書きました。隸書は篆書の点画を直線化・簡略化した漢代の正式書体です。起筆は藏鋒。收筆に波勢。特に波磔に装饰的な筆法が見られます。横広の字形、水平・等間隔の横画、転折部は筆を一度引き抜き、改めて藏鋒で入筆します。今月は曹全碑を基にしました。漢簡・漢碑の名品の臨書で多様な隸書が学べます。

*タテ形式に限る

廣瀬舟雲

東京2020エンブレム
『組市松紋』は、江戸の
伝統模様をモチーフと
して大会の意義と
粹な日本を描く。舟雲書

「東京2020」は、東京オリンピック・パラリンピックの略称。延期となつてもこ
れを受け継ぐ事となつた。エンブレムは開
催都市の文化等をモチーフとした大会の紋
章であり、街角のポスターや旗に描かれ開
催への気運を高めている。形の異なる三種
類の四角形を組み合わせ、国や文化・思想
などの違いを示し、それらを超えて繋がり
合うデザイン。安心安全を脅かす未知の敵
に打ち勝つ特効薬の開発など今まさに地球
規模の協力が必要な時。算用数字と漢字、
仮名との調和がポイント!!

東京2020エンブレム
『組市松紋』は、江戸の
伝統模様をモチーフと
して大会の意義と
粹な日本を描く。

用紙=はがきの大きさ(84×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

(東京2020大会公式サイト)

前略 草々 新緑 若葉薰る
前略 草々 新緑 若葉薰る

青葉を渡る風もさわやかな候と
青葉を渡る風もさわやかな候と

姓
号

(楷書) 前略 草々 新緑 若葉薰る
(楷書) 青葉を渡る風もさわやかな候と

(行書) 前略 草々 新緑 若葉薰る
(行書) 青葉を渡る風もさわやかな候と

基本用語 「前略」前文省略する場合に使用する。結びは「草々」
「早々」など対応する言葉を使用する。

※小筆・筆ペン・サインペンなどを使用。署名は各自の姓号を。

(掲載手本90%に縮小)

- 用紙は普通版半紙½、B5版コピー用紙でも可。
- 所定の出品券を作品の右下に貼る。〈審査会員を含む誰でも出品可〉

今月の

ホープ作品
各部総評 NO. 707

ペン字部 師範 田玉 哲子
表現力豊かな流麗な筆致が魅力。
漢字とかながよく調和し、落款まで統一され心地よい。

◎ペン字部總評 字形よく見応えのする作品が多くたが、書体は自由なので手本中心でなく、多彩な表現を望みます。（仙草評）

締めくくりと後鳥羽院と
順徳院の親子にてたゞは
政治的に不幸な幕切れだが
二人を最後に飾ってあげた
かつたらへ。 拙書

かな条幅部 準師 岡田 麻美
たおやかなリズムで潤滑も美しく、自分なりの解釈で運筆した姿勢が好ましい。もう少々大きく、◎かな条幅部總評 比較的バランスよく誤字も少なかったが、何でも過剰品を欠く。字数が少ないので墨量も調節したい。（洋子評）

捺こやむと朱雀のこぼれ

現代詩文書部 特選 田中 一葉

鍛錬による確かな文字表現、大胆な大字と軽妙な小字の調和も見事である。

◎現代詩文書部總評 日頃の学習で学んだ書として大切な事を書作に生かして欲しい。（岳峰評）



漢字条幅部 師範 東 花子

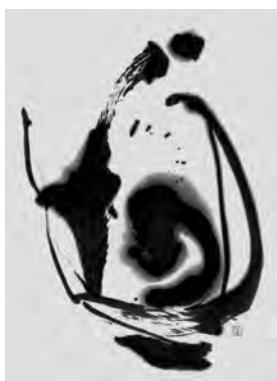
余白も充分に取り、明るく爽やかな構成。完成度の高い作品です。（萬城評）



前衛書部 特選 波多 祥舟

線の造形に魅力ある作品。躍動感あふれる筆線見事、更なる高みを目指して。

◎前衛書部總評 個性的で、表現力豊かな意欲作品に期待する。（仙岳評）



◎漢字条幅部總評 橫形式の作品にも慣れてきた感がします。配置

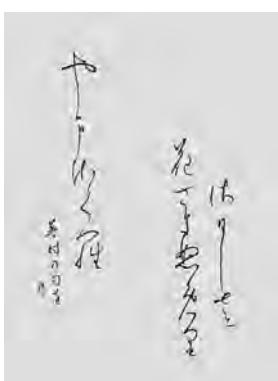
にも慣れてきた感がします。配置の工夫が巧みになってきました。（齊・齊の誤り多見。萬城評）



漢字部 師範 新井 藤雪

すつきりと切れ味よく、爽快な作品。全体構成もバランスよくまとまって安定感ある作。

◎漢字部總評 上級4字句は見慣れた語句でやや平凡作多し。書体書風の変化や、用具の違いによる工夫など更に努力を。（大雲評）



かな部 師範 磯貝 清耀
安心して眺めていられる作品である。連绵線のスピード感が古典の学習の深さを感じさせ美しい。◎かな部總評 過大、過小で字粒の把握困難な作多く残念。わかり易い文字の組み合わせ、墨量変化で美しい疎密を創る努力を。（明子評）

「書道芸術」2020年4月号(708)から 競書部門など変更のお知らせ

「書道芸術」4月号(708)から内容
が一部変更になりました。詳細に
ついてお知らせします。奮って
出品をお願い致します。

1. 「篆刻部」を新設

△募集規定▽

①篆刻△ア・課題による語句 イ・原印は自由

(原印のコピー添付)

②創作 語句は自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)

以内とし朱文、白文自由。

○印箋については市販のもので
も、半紙横1/2の大きさに切っ
たものでも可。

○創作、篆刻とも応募は一人一
点とする。

○審査結果は段級を設けない。
優秀作品と選評を掲載する。

2. 「実用書」を新設

△募集規定▽

○用紙 半紙横1/2(24.5×16.5cm)、
B5コピー用紙縦(26×18.1cm)cm
も可。

B. 小品の部の作品寸法

(創作・臨書)
毎日展一般公募サイズ・全紙も可
(縦横自由)

	毎日展審査会員・会員サイ ズ以内 (縦横自由)	
1.	242cm	(8尺)×61cm (2尺)
2.	182cm	(6尺)×79cm (2.6尺)
3.	176cm	(5.8尺)×85cm (2.8尺)
4.	121cm	(4尺)×121cm (4尺)
5.	136cm	(4.5尺)×106cm (3.5尺)
6. その他		

3. 「特別研究部」の作品サイズ の変更

A. 大作の部とB. 小品の部を設 ける。

(創作・臨書)

毎日展審査会員・会員サイ ズ以内 (縦横自由)

※応募資格
1. 篆刻部、2. 実用書、3. 特
別研究部は審査会員・審査会員
候補・無鑑査・一般講読者どな
たでも出品できます

※出品券
それぞれ所定の出品券(P46)を使
用して下さい(作品の右下に貼
付する)。

お知らせ

「21世紀の書—私の主張—」は3
月号(707)をもちまして終了いた
しました。

6月号(710)から新企画として、
かな基礎基本講座(下谷洋子先
生担当)と現代詩文書基礎基本
講座(小竹石雲先生担当)がス
タートします。

※不明な点がありましたら、編集
部までお問い合わせください。

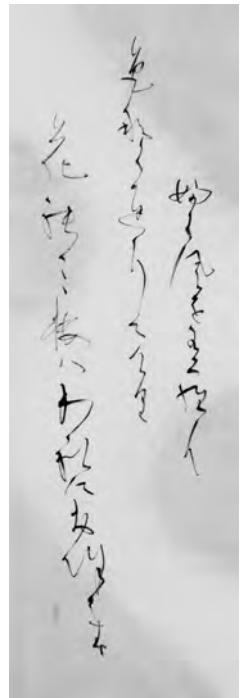
今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 山口仙草 田村鄭雲 三浦鄭街

かな
(潮音)

齋藤杏邑 「吹く風を」



齋藤杏邑書



現代詩文書 (蒼風) 笹木蒼風
「小野十三郎詩」

133×60cm

◆自然な行構成に、締まった切れ味よい線質で軽快なリズムをたたみ、清品な趣。墨量もう少し。

(洋子評)

◆練度の高い丁寧な運筆で線の太細、潤渴も絶妙な作品です。墨量の変化等、更なる発展を望む。

(仙草評)

◆料紙の模様を生かし、変化の中にも洒落た雰囲気を醸し出す。自然な運筆で、深味ある線質が美しい。

(鄭雲評)

◆詩文の意を生かし、言葉が伝わるように表現されている。

墨量の配置も良く、小書き部分の調和絶妙。

(鄭雲評)

◆粘り強い線質で潤渴のきいた中字と小字を組み合わせた構成。特に小字部分が味のある雰囲気で良い。

(鄭雲評)

◆刷毛のような筆か、グイグイ引き込まれるようなタッチがリズミカル。大字と小字の配分に聴目。

(洋子評)

億種其方聖合不威禁洗樂沙流佐更邑所在安樂里復顔聖族氏并之表人夙儀中備汎佐粗聲造食書陵尊氏之石之燭冷和而叫二柱瑟立橫倍遲孔紀遠敬是下不注朝邊鼓禮仁道秦へ官親傳連咏四合上水車杖雷器于畔項念氏禮

竹浪叙舟臨

135×70cm

臨書 (千葉)

竹浪叙舟
「礼器碑」

◆洗練された横の臨書作品で淀みなく軽快に筆を進めている。品格高く見応えのある作となっている。

(仙草評)

◆存在感十分な礼器碑の臨書作品。作者の古典に望む強い姿勢が感じられる。次の作品も楽しみである。

(洋子評)

◆強靭な精神力を感じる臨書。一点一画だけでなく、臨む姿勢が群を抜き、たゆまぬ努力に敬意!

(洋子評)

◆熟練した細字表現で構成が良い。線が鋭く強靭、隙もないが、作品からゆとりが感じられると尚良い。

(鄭雲評)

漢字 (静心書道会) 田中岳舟 「城東早春」



175×53cm

田中岳舟書

◆七言2句を二行で仕上げた。

◆文字の大小変化をつけた作品だが小さい文字の動きが課題か、更なる飛躍を。(鄭街評)

◆濃墨を生かし伸びやかな線が変化に富んで見応えのある作となつた。落款の処理を工夫されたい。(仙草評)

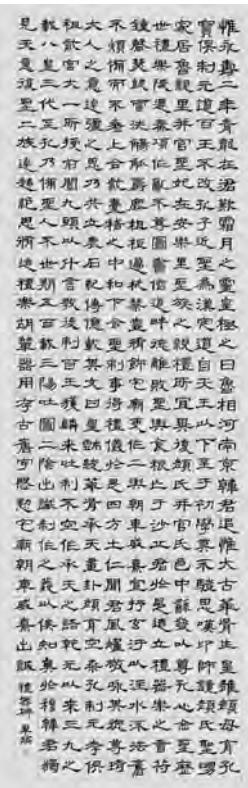
◆七言2句を二行で仕上げた。文字の大小変化をつけた作品だが小さい文字の動きが課題か、更なる飛躍を。(鄭街評)

◆ゆったりした、大胆な振幅と呼吸が作品の雄大さと繊細さを同居させている。少し曲線が目立つか?(鄭雲評)

臨書

(紅瑠)

金井みどり 「礼器碑」



180×58cm

金井みどり臨

臨書

(紅瑠)

金井みどり 「礼器碑」

◆漢代の隸書の最高傑作と言われた礼器碑、整然と文字が並び余白も生き変化に富んだ美しい作品となる。(鄭街評)

◆漢代の隸書の最高傑作と言われた礼器碑、整然と文字が並び余白も生き変化に富んだ美しい作品となる。(鄭街評)

(鄭雲評)

臨書

(紅瑠)

金井みどり 「礼器碑」

◆漢代の隸書の最高傑作と言われた礼器碑、整然と文字が並び余白も生き変化に富んだ美しい作品となる。(鄭街評)

◆漢代の隸書の最高傑作と言われた礼器碑、整然と文字が並び余白も生き変化に富んだ美しい作品となる。(鄭街評)

(仙草評)

◆淡墨に白のバランスが美しい。造形の妙も想像力をかき立て、柔らかで爽やかなメロディを誘う。(洋子評)

◆淡墨に白のバランスが美しい。造形の妙も想像力をかき立て、柔らかで爽やかなメロディを誘う。(洋子評)

◆淡墨を巧みに使い上から下へ余白のきいた快作になった。よく眺める程、墨溜まりに深い味わいを感じる。(鄭街評)

◆淡墨を巧みに使い上から下へ余白のきいた快作になった。よく眺める程、墨溜まりに深い味わいを感じる。(鄭街評)

◆淡墨を巧みに使い上から下へ余白のきいた快作になった。

◆淡墨を巧みに使い上から下へ余白のきいた快作になった。

◆淡墨を巧みに使い上から下へ余白のきいた快作になった。

◆淡墨を巧みに使い上から下へ余白のきいた快作になった。

前衛書

(書遊会)

庄司咏艸 「芽生え」



180×60cm

庄司咏艸書

◆緻密に丁寧に原帖に寄り添い見事。一貫した息遣いに神々しさも漂う。特に波磔の自然さに惹かれた。(洋子評)

◆緻密に丁寧に原帖に寄り添い見事。一貫した息遣いに神々しさも漂う。特に波磔の自然さに惹かれた。(洋子評)

◆淡墨で余白を生かした表現。曲線の多い作であるが、太細や形、潤滑の変化を操り面白い。印の位置? (鄭雲評)

◆淡墨で余白を生かした表現。曲線の多い作であるが、太細や形、潤滑の変化を操り面白い。印の位置? (鄭雲評)

創作の部(40点)

漢字 - 5点
かな - 4点

現代 - 14点
篆刻 - 10点

前衛 - 17点
漢字 - 18点
かな - 4点

臨書の部(22点)
漢字 - 18点
かな - 4点

総出品点数
62点
〔特選候補者〕
〔創作の部〕
〔漢字〕
A I 藤村 昌子
「かな」
〔現代詩〕
大雲 柿沼 彩香
松風 西山
青蓮 白河
篤伸 三浦 朱鳳
月華 中塙 朱華
紅瑠 佐藤 成美
〔臨書の部〕
〔漢字〕
澄春 新行内芳
樹原 紺野
澄春 江本
大雲 土屋
英峰 恵仙
吉瀬 遊舟
「かな」
清水由紀子
高さが窺える。
(仙草評)

漢字研究部
(礼器碑)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



中込京花

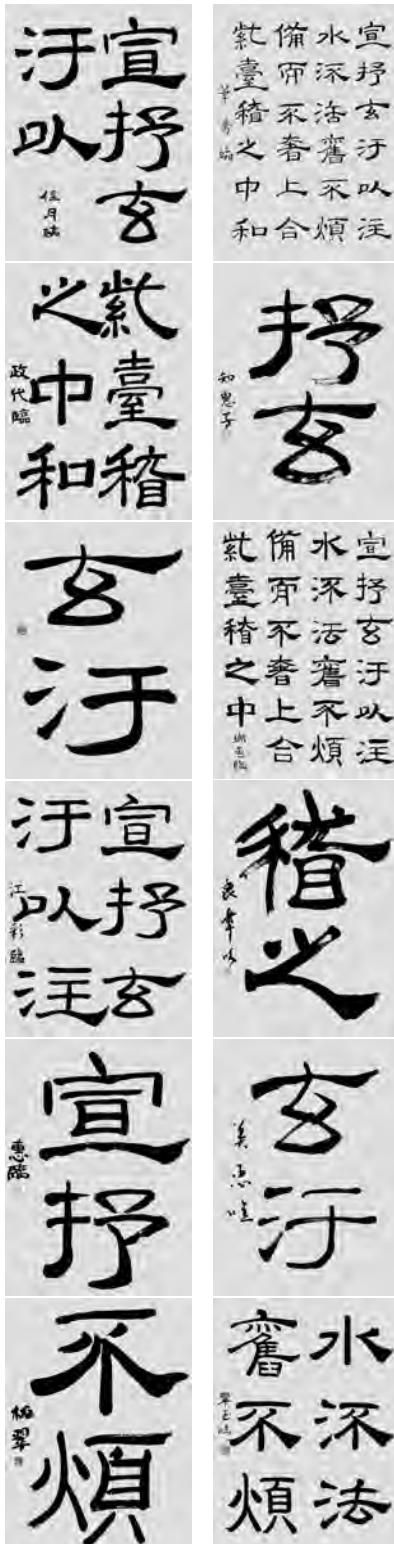
漢字研究部 特選 中込京花

用筆が確かな上に、安定した結体の隸書です。字間の余白のとり方も当を得た明快な臨書です。特に収筆の先にある空筆は、余韻を感じさせ、安定と品格ある立派な作品に仕上がっています。

◎漢字研究部總評

努力作が多数寄せられましたが、隸書に馴染みのない人も多かったと見え、練度の高い

作とそうでない作との差が大きいと強く感じました。「温故知新」この様な古い時代の書体も積極的にまなばれることを望みます。今後の学書の為、気付いた点を挙げますと、起筆が露鋒の作、収筆を書き終えた後の空筆が右上がりになりすぎた作などに注意点を感じました。最も気になったのは、横画が水平でなく右上がりの作がかなり多かったことで



桃江光政佳
惠翠彩子代月



翠美良瑞知華
惠玉子章恵子秀
瑛高蒼梅紅菜
仙堂信香霞々
明敦彩翠紫楊
日香子香徑千風

かな研究部
(寸松庵色紙)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



翠松甘
光美雨

裕紫
美千
朗子

光永か
つ
堂簾子

愛哲和
石子子



猿渡簾右

◎かな研究部総評
太い線と細い線のコントラストをつけようという
わざかばかりの空間に広く大きな世界を見せてく
れる寸松庵色紙。その理由を考えて臨書したい。
意識が感じられ、行間の取り方も良い。字形のポイ
ントの把握と筆の立て方が課題。
種先がいかに活躍しているか、観察すべきです。

かな研究部特選 猿渡簾右	
かな研究部成績表	
大日有正洞 紅瑠秀	薫蒼立高菊潮京中一澄紅う誠甲誠玉樹上北た椿石や清た 書陽精井月音橋川弦春瑠る和和川原泉原か翠習ま月か
靈石石安青藍澤作 貝橋川川藤木澤知 清嘉洋津楊松白珠 椿菊玉松佳	坂込千櫻宮齋東三早植須飯新高石谷庄早仁浜平松田境猿渡 一本山田田崎藤 田坂田田高谷藤崎知司部木野山丸玉野渡 里美白和杏花蒼萌紅香幹翠松甘美業 光永つ愛哲和簾 美艸香子明邑子舟香雨舟生光美雨子千朗堂簾子石子右 明華硯澄大京白京東上青白春大もた有青竹書明山颶大若英高澄樹 誠 漢仙水春雲橋露橋向泉蓮珠汀阪くか秋峰原泉漢武葵雲葉峰崎春原 和
安新井木作 代惠美子 子翠秋秀春雲子春香子心龍子水風簾原代子美華葉房雨子峰美舟花	吉山宮増堀古春昌萩沼西中富戸樋武高代七島佐後黒工吉北金葛鶴入 口田澤田切川谷岡山原田山原部泉山橋田五夕藤柳藤瀬村杉 鶴草華幸魯美聰芝洋奎葵知局藤雪花千葉と美町良竹山彩欣紫恵琴悠 子翠秋秀春雲子春香子心龍子水風簾原代子美華葉房雨子峰美舟花
大澄仙光さ文 阪春台彩つ筆入	芳秀無八長上長前 蘭正は玉上大書上東大紅青土秀大蒼大八蒼大広蘭大こ青大明玄も四白高紅八塚白岩水塙珠沼海和 蘭鏡門街月泉月橋 鼎華せ松泉泉室雲風嵐氣散拙風雲街原阪島鼎雲こ蓮阪漢穹く鷲真風街
天阿熟淺明青 羽天海川石木 多坊み 恵洗桃な麗知 子翠草江子	渡吉山村增本平春除林林長橋根名永中道積田平松椎佐笠驚齊小川川河加小小尾岡大江梅岩井石石石飯安 邊川中上田多山山尾 谷本岸取井村庭田畠 田名藤木山藤田林本崎合藤野澤形部友口山田上田澤泉藤 さか喜シ寿 信幸清佳佳和だ勝は雅美久紅正美伯ゲ白雅美杏祥光陽蒼美桂花荻南優和翠朱萩和紅藤四茉久代芝悦徳正洋裕 溪恵玉月子枝子美る子子霞子紬子昇雲子華風子子風梢子夢江汀子敬陽星光子霞瓊峰悠子雲子子子子子
澄玉白麗 春川露澤	澄書A菊正八松八富硯現光竹洞澄八樹大秀千附伏立東梓華澄青書玉正梅椿中白澄東澄久澄立八幸蘭八こ清大も 春游I月華生村街貴水汀彩美書春街原雲霞葉中華精向江祥春峰游藻華桃翠川驚春総春賀春精街扇鼎街だ月拙く
高関春須鉢新庄清島柴篠鹿佐佐佐佐櫻酒齋紺高小久國岸菊蒼川加加鹿小荻岡大大大宇薄宇岩岩猪井稻市石五飯荒新 橋根原藤木行司水 田田田々々々田田井藤藤野水池保峰 地野元藤瀬島原田西島木田井測瀬股ノ垣田川渡十鳥木井 内由 恵世木千木木木 幸代慶萩利瑞咏紀悦洋美志美芳雅和龍智花翠永遊玄直智琴民白静茱雅夏裕一昌竹歩春春楠祥祥白春祥チ翠佳ミ孫藤 苑子子雨子華艸子子子江蕙子芳子貞舟雪香舟山城子美翠子雅代仙芳子こ藻美美子鳳佳華綠麗苑蕙峰葉子徑栄子功雪	秀堺A泉四桂玉清秀玉旭 外水 I会枝月松月韻川老
遷竹春こ京昌竹蓮東華幸己椿高竹桜あ春大墨桜千高蓮A生松誠	澄大長秀麗玉幸 高澄一大 外原汀だ橋苑美紅伯仙扁未翠崎美草か汀雲宣草葉崎紅I大村和 春阪月韻澤松扇 崎春草阪
123渡渡吉吉横遊山山山安矢八守本富三真松松松本堀藤藤福深深廣原林長野根二浪中中中中富利寺辻塚谷田竹竹高高 名邊邊野田田山佐本本本根嶋口木友吉野浦庭本重浦田江本科生原堀澤地澤 谷谷村本通川村西江澤守原 田脇中澤内原 氏眞橋橋鼻満タ百 美川川 美理由 名美貞桜佑翠蘭紅真美梅美砂登紀津明津進道ヶ台翠玉美幸善紀里清佳美典余 千幸雅麗秋一惠よ蕙佳恵洋美晴耶恒智貞 荀子佳子綾舟雅紀楓香子子江舟子香枝子ミ子景江雪泉蕙子萌洗月幸子子翠峰城子子花琴子子子理子子翠衣子子子	秀堺A泉四桂玉清秀玉旭 外水 I会枝月松月韻川老

書

展

佐々木月光遺墨展

つきかげ

—たらちね—を観覧して

元砺波市美術館長 小野田 裕司

会期＝令和2年3月20日(金・祝)

～22日(日)

会場＝北日本新聞社

砺波支社ギャラリー



「雅休のうた」黒田信一先生との合作



会場風景

佐々木春子さんであつた。高校を卒業し見習い教諭として勤務されていたのである。

今回の遺墨展では良寛さんの「日々日々又日々」が、まず目に留まり、岐阜県中津川の栗きんとんで有名な和菓子屋「すや」を思い出した。木曽けやきの大看板「すや」の2文字は良寛の

「いろは」の書から拾つたという。

また、高校生の頃書かれたという、室生犀星作詞の現在は砺波高校である

出町高等学校校歌。出町中学校の恩師黒田信一先生(画)との二人合作展の作品などもあり、楽しいひとときを過ごさせていただいた。

平成23年4月、思いがけず砺波市美術館長となつた時、「青葉幼稚園に通つておられたころの館長さんを、知つますよ」と、声をかけてこられたのが

※ 新型コロナウイルスの影響で「第13回粹仙会書作展 春夏」は中止と致しました。お詫び申し上げます。

粹仙会 代表 藤井龍仙

第13回 粹仙会書作展

令和2年6月26日から
令和2年7月 8日まで

後援:公益財団法人書道芸術院
協賛:筆匠古城園

毎年、初夏に粹仙会員の発表の機会として開催しています。今年から冬と夏の展覧会の回数を合算しています。こどもからご年配まで、仲良く愉しくやってる教室のみなさんが日々頃書いている作品の中から、よい、おもしろい、がんばった、みせたい、作品を展示しています。

フジグラン緑井5F ギャラリー PASSEGE
9:00～24:00(最終日は 20:00まで) 緑井駅 1分、中緑井バス停 1分
駐車場は無料で、直接エスカレーターホールに入れます



●篆刻

【六月十五日締めきり】

〈出品規定〉

- ①摹刻 (ア)課題による語句
(イ)原印自由
(出品の際、原印のコピー添付)

- ②創作 語句自由

〈原印コピー〉



5月号 摹刻課題

- 印面の大きさは2.3cm(八分角)
以内とし朱文、白文自由。
○印箋については市販のものでも、
半紙横1/2の大きさに切ったもの
でも可。
○創作、摹刻とも応募は一人一点。
審査会員を含む、誰でも出品可。

〈参考作品〉

後藤大峰刻

創作 (朱文印例、八分角約2.3cm)



「孟夏」

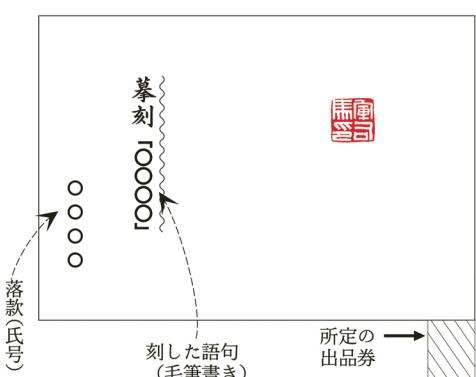
摹刻 (朱文印例、八分角約2.3cm)



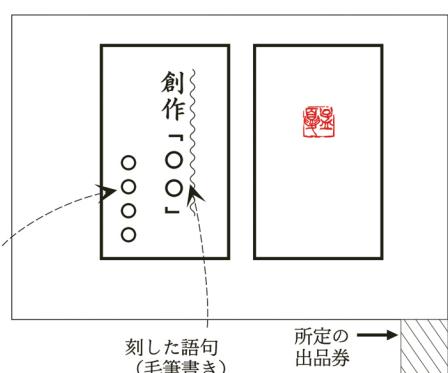
「土方」

○出品方法

用紙の右側に押印し、左側に印影
の記文を明記、並びに落款(氏号)
を入れる。



* 半紙横1/2使用の出品 (摹刻例)



* 印箋使用の出品 (創作例)

◎郵便物・清書・送金・一般事務等は
東京都千代田区
東神田一一一六一七
東神田プラザビル三階
電話(03)3861-1954
FAX(03)3861-1957
お問い合わせ、ご連絡は、
月曜日～金曜日九時～十七時の間に
お願いします。(土・日・祝日は休み)

送 料

一か月の購読部数が

1部～9部までの1回の郵送料

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

令和二年四月二十五日印刷
令和二年五月一日発行

定価 一部 700円

編集兼
発行人 辻元洋一(大雲)
データ処理
印 刷 株式会社リンクス
印 刷 小沢写真印刷株式会社
発行所 公益財団法人書道芸術院
東京都千代田区東神田一一六七
電話(03)3861-1954
FAX(03)3861-1957
振替 00150-41-35055
ホームページ http://www.lines.co.jp/shogei/

101-0031